

令和7年度具体的な学校経営目標・計画 岡山県立真庭高等学校

A：達成基準を達成した、または上回った。 B：達成基準をほぼ達成した。 C：達成基準を下回った。

※SSQ:学校自己評価アンケート School Self-evaluation Questionnaire

学校経営目標		担当	具体的計画	達成基準																														
1 進路実現のために必要な 学力の獲得	①講義形式のみの授業から脱却し、ICTやグループワーク等を活用した工夫された授業 ②資格、検定等の取得 ③将来を見据えた丁寧な指導による進路希望の実現	1年	【③】 自己の将来や進路について考える機会を作り、生徒の進路意識を向上させる。 ・各学期に1回以上、生徒全員と個人面談を行う。 ・進路課と連携して年間2回進路意識を高めるLHRを実施する。	A：個人面談年間4回、LHR2回 B：個人面談年間3回、LHR1回 SSQ（生徒）「自分の進路について真剣に考えることができた」と回答した生徒の割合 80%以上																														
		3年	【②・③】 目標・目的を持ち、資格検定等の取得や校外でのボランティア活動等への参加ができる。その体験をもとに、自己認識を深め、肯定的な自己表現ができる。 ・資格検定、ボランティア活動等の情報を生徒に周知し、挑戦・参加を促す。 ・資格検定、ボランティア活動等の体験について言語化させることで、自己理解や進路選択、生き方について、思考を深めさせる。	SSQ4項目（No.2・9・15・29）での生徒の肯定的評価 A：9割以上 B：8割以上 <table><tr><th colspan="2">生徒</th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>全体</th></tr><tr><td>2</td><td>進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。</td><td>94%</td><td>91%</td><td>90%</td><td>92%</td></tr><tr><td>9</td><td>学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。</td><td>98%</td><td>94%</td><td>92%</td><td>94%</td></tr><tr><td>15</td><td>学校は、SDGsの達成に向けて、TR（真庭トライ＆リポート）や地域合同防災訓練、ボランティア活動等の教育活動を実施している。</td><td>97%</td><td>90%</td><td>87%</td><td>92%</td></tr><tr><td>29</td><td>真庭高校に入学して良かった。</td><td>90%</td><td>81%</td><td>85%</td><td>84%</td></tr></table>	生徒		1年	2年	3年	全体	2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	94%	91%	90%	92%	9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	98%	94%	92%	94%	15	学校は、SDGsの達成に向けて、TR（真庭トライ＆リポート）や地域合同防災訓練、ボランティア活動等の教育活動を実施している。	97%	90%	87%	92%	29	真庭高校に入学して良かった。	90%	81%	85%	84%
		生徒		1年	2年	3年	全体																											
		2	進学や各種の資格取得、検定の合格に向けた指導が十分行われている。	94%	91%	90%	92%																											
		9	学校は、進路選択やその実現のために適切な進路指導を行っている。	98%	94%	92%	94%																											
15	学校は、SDGsの達成に向けて、TR（真庭トライ＆リポート）や地域合同防災訓練、ボランティア活動等の教育活動を実施している。	97%	90%	87%	92%																													
29	真庭高校に入学して良かった。	90%	81%	85%	84%																													
進路指導課	【③】 3年生が進路決定に際し、進路先を比較・検討するため、2つ以上のオープンキャンパスや応募前職場見学に参加する。進路指導課の相談機能を充実させ、生徒の主体的な進路決定につなげる。	オープンキャンパスや応募前職場見学到2つ以上参加した3年生（AC）の割合 A：90%以上 B：90%未満																																
看護科	【①】 ・看護に関する専門的な知識・技術を習得させる。 ・臨地実習につながる授業を組み立てる。 ・多様な学習スタイルを設定し、協働しながら主体的に考え抜く力を身に付けさせる。 1）臨地実習と校内演習の記録物の検討と改善 2）技術テストの実施（各学年2回/年） 3）放課後学習会の開催 4）他学年との交流学习の実施	A 1）検討会を年2回実施 2）1・2年は年2回、3年は年1回実施 3）各考査1週間前に5回実施 4）3学年で年1回実施 1）～4）を実施し、観点別評価が以下のとおり。 AまたはB：観点別評価（知識・技術）80%以上 AまたはB：観点別評価（主体）80%以上																																
専攻科	【③】 看護師国家試験に向けて、主体的に学習に取り組むことができるような学習場面を設定する。 ・朝の小テストの実施 ・模試実施後の項目学習 ・放課後補習の実施 ・生徒による小テスト計画	<前期模試得点率> A：必修問題：全員80%以上 一般状況：全員65%以上 B：必修問題：半数が75%以上 一般状況：半数が60%以上 <後期模試得点率> A：必修問題：全員85%以上 一般状況：全員70%以上 B：必修問題：全員80%以上 一般状況：全員65%以上																																
2 自己指導能力の育成	①日常の指導を大切に した基本的な生活習慣の確立 ②総合的な探究の時間、特別活動等の実践から人間関係を築く力の育成 ③部・生徒会活動、地域貢献活動等の自主活動を通じた自己有用感の向上	生徒課	【①】 校内での日常の中で、あいさつ指導、服装指導を日常化する。（例：職員室に入室してきた際に、指導を行う。） 遅刻の多い生徒に対しての指導を徹底する。 （回数指導：5回担任、10回学年主任、15回学科長、20回生徒課長）	一斉指導で帰宅指導を受ける生徒の数（年間平均） A：1人未満 B：1～3人																														
		総務課	【③】 委員会活動や学校行事において、生徒が自主的に活動できる場面を設定し支援する。 （保健委員会）地域合同防災訓練で保健委員会のブースを展開し、地域に向けての自主的な活動を図る。 （環境委員会）今年度より始まった、プラスチックごみの分別について浸透するように啓蒙活動を行う。 （地域合同防災訓練）昨年度の振り返りを生かし、生徒自ら企画運営をする活動を行う。	それぞれの活動において、自主的に取り組むことのできる設定された場面の数 A：2つ以上 B：1つ																														

学校経営目標		担当	具体的計画	達成基準																																																				
3 地球的な視野にたち持続可能な地域社会をつくる人材の育成	①地域、行政との連携を通じて、課題解決能力の向上 ②海外研修等を通じて、地球的な視点に立ち思考する力の獲得	経営ビジネス科	【①】 地域、行政と連携した授業、実習やイベントに参加することで、ビジネス実践力や課題解決能力を身に付けさせるとともに、地域への貢献を意識できるようにする。	生徒1人ひとりが実習やイベントなど、地域とともに学ぶ機会の回数（年間） A：3回以上 B：3回未満																																																				
		食農生産科	【①】 地域、行政と連携した授業、行事を実施し、それぞれについて効果的な振り返りを行うことで問題の発見やその解決について考え取り組む力を向上させる。	生徒アンケートによる集計結果の肯定的意見 A：70％以上 B：35％以上																																																				
4 効果的な情報発信	①ホームページ、SNS、まにこうだより等によるタイムリーな情報発信 ②テレビ・新聞等へのきめ細かな取材依頼による情報発信 ③中学校進路説明会、オープンスクール等での洗練されたプレゼンを行う。	教務課	【③】 高校側の説明を生徒目線や生徒の声を使ったものを重視し、各科の特徴的学習内容や、取得できる資格、Team MANIWAを感じるプレゼンを作成する。	オープンスクール参加者数、志願者数が前年度を上回ったらA、そうでなければB ・オープンスクール <table><tr><td></td><td></td><td>食農</td><td>経ビ</td><td>看護</td></tr><tr><td>R4</td><td></td><td>52</td><td>34</td><td>33</td></tr><tr><td>R5</td><td></td><td>48</td><td>51</td><td>47</td></tr><tr><td>R6</td><td></td><td>45</td><td>46</td><td>40</td></tr></table> ・志願者数 <table><tr><td></td><td></td><td>食農</td><td>経ビ</td><td>看護</td></tr><tr><td rowspan="2">R5</td><td>特入</td><td>38</td><td>25</td><td>22</td></tr><tr><td>一般</td><td>7</td><td>0</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="2">R6</td><td>特入</td><td>27</td><td>22</td><td>15</td></tr><tr><td>一般</td><td>4</td><td>2</td><td>6</td></tr><tr><td rowspan="2">R7</td><td>特入</td><td>25</td><td>20</td><td>16</td></tr><tr><td>一般</td><td>1</td><td>3</td><td>1</td></tr></table>			食農	経ビ	看護	R4		52	34	33	R5		48	51	47	R6		45	46	40			食農	経ビ	看護	R5	特入	38	25	22	一般	7	0	3	R6	特入	27	22	15	一般	4	2	6	R7	特入	25	20	16	一般	1	3	1
		食農	経ビ	看護																																																				
R4		52	34	33																																																				
R5		48	51	47																																																				
R6		45	46	40																																																				
		食農	経ビ	看護																																																				
R5	特入	38	25	22																																																				
	一般	7	0	3																																																				
R6	特入	27	22	15																																																				
	一般	4	2	6																																																				
R7	特入	25	20	16																																																				
	一般	1	3	1																																																				
5 学び続ける教職員の育成	①「面白い」と生徒に言わせる授業を実践できるよう、授業力の向上 ②Team Maniwa の言葉を活用した、生徒教職員の組織力向上 ③年度途中での分掌、係の見直しによる業務の平準化	管理職	【③】 月当たりの時間外在校等時間が80時間を越える教員を0人にし、45時間以上の教員0人を目指す。 1 組織的対応 勤務状況・学校行事等を勘案して年度途中の分掌変更を実施し、業務の平準化を目指す。 2 個人の意識改革 ミライム集計表を分析し、教職員が自身の働き方について考える機会を持ち、意識改革を進める。	時間外在校等時間延べ人数 A：80時間超0人 45時間超 0人 B：80時間超0人 45時間超50人 R6集計結果 80時間超 13人 45時間超150人 SSQで以下の項目がすべて90％以上（表の数値はR6教師） <table><tr><td>真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。</td><td>83%</td></tr><tr><td>自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ時間外勤務を減らすよう工夫して働いている。</td><td>92%</td></tr><tr><td>教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。</td><td>84%</td></tr></table>	真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。	83%	自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ時間外勤務を減らすよう工夫して働いている。	92%	教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	84%																																														
		真庭高校で働くことにやり甲斐を感じている。	83%																																																					
		自分は、仕事の効率化を図り、できるだけ時間外勤務を減らすよう工夫して働いている。	92%																																																					
教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる。	84%																																																							
2年	【②】 「未来を生きるため、協力すべきときにチームで動く練習ができるように働きかける。」 ・LHR・TR・授業で、グループで話し合いができるように話し合いの始まりと終わりを意識させる。 ・LHR・TR・授業で、グループで話し合いをしたとき、良い場面を褒める。また、改善のアドバイスを送る。	生徒アンケートで「チームで動くことができた。」と回答 A：80％以上の生徒ができたと回答 B：50％以上の生徒ができたと回答 2年団の先生方から「生徒たちが、前向きな表現ができるようになった。」と回答 A：80％以上できたと回答 B：50％以上できたと回答																																																						
事務室	【②】 事務担当者と教員の情報共有を丁寧に行うことで業務分担を明確にし、充実した教育活動とする。特に、生産物等の販売についてはSNS等による広報も含め販売業務の支援をする。	学校評価アンケート（教職員）のQ32「教職員が協働し、組織的に学校運営に取り組んでいる」について肯定的回答による。 A：80％以上 B：50％以上～80％未満																																																						